

「アートプロジェクトによる地域活性化事業に関する考察 ～ 災害や感染症等の非常事態下における瀬戸内国際芸術祭の在り方とは ～」

1831002 秋山詠美 (江間ゼミ)

○論文の要約

アートプロジェクトは地域活性化手段のひとつとして活用される。アートは、地域と出会う足掛かり、過去や現実の再現、制作過程での多様なコミュニケーションの誘発、地域特性の効果的な創出といった機能と役割を果たしている。

本研究では、瀬戸内国際芸術祭を題材に、地域活性とアートプロジェクトとの関連性を整理し、特に非常事態下において芸術祭が取るべき対応策について、他の芸術祭やアートプロジェクトとの比較を通して分析・考察した。

その結果、瀬戸内国際芸術祭は、他の芸術祭では行われていたイベント名称・ロゴ等の変更や非常事態関連作品の展示の提案が見られず、開催地域で起きた産廃不法投棄事件に関連した働きかけ等も僅かしかなかったこと等が課題として浮き彫りとなった。

アートプロジェクトは、今後起きうる災害や被害等の非常事態に際しても適宜柔軟に対応し、アートの機能や役割を通して被災状況等を翻訳・伝承していくことが期待される。